

第2回東浦町公共施設再配置計画検討委員会意見対応表

No.	意見内容	対応
1	第5章の基本方針3について、トータル面積を減らすと強く示した方が良いのではないかと。	トータル面積を減らす旨の記載に修正しました。
2	第2章第1節の社会潮流について、当該箇所のみ視点が世界規模になっているように感じる。もう少し東浦町として現実的な規模（例えば資材不足や人不足等）としても良いのではないかと。	現状の記載は社会情勢の変化に公共施設も対応する必要があるため残しますが、新たに日本全体の人口動向（人材不足）及び建設資材価格高騰を追記しました。
3	貸館機能があれば場所は問われないとあるが、言い方を変えた方が良いのではないかと。	「いずれの貸館機能的場所においても活動可能」という表現に修正しました。
4	第5章の基本方針3について、民間施設・県有施設・広域連携とあるが、何を有効活用できるのかを教えてください。	本編第2章第3節4相互利用の状況に広域連携の観点で相互利用の状況を記載しております。当該箇所に県有施設官民連携の旨を追記しました。
5	施設を管理（有効活用含む）できる仕組み・人材の論点が出ると良い。また、広域的な相互利用の視点（特に、東浦町は、知多半島で唯一刈谷市と定住自立圏協定を締結している）も入れておくべきと考える。	前段について、第5章基本方針1に施設を有効活用できる管理運営の旨を追記しました。後段について、本編第2章第3節4相互利用の状況に記載の刈谷市との定住自立圏構想の旨を踏まえ、概要版第2章第3節にも追記しました。
6	緒川新田地区について、本当は巽ヶ丘駅を中心として広域的に考えると違う絵がかけると思う。東浦町だけですべてをまかなうというのは厳しいと考える。	—
7	第2章第4節の人口について、出典が国勢調査とあるが、概要版では2010年をピークに減っていると記載があるが、実際の人口の動きとは異なる。出典を表記するなど誤解のない表記に改めるべき。	国勢調査を出典とし、表記に関し、国勢調査をもとにした記載に修正しました。
8	面積は増やさず減らす方向性を原則としたうえで、今後、公共施設にかけられる投資的経費等の前提条件を整理し、具体的な目標を設定して検討すべきではないかと。目標値がないと今後、個別施設計画を作成する上で、建物の規模や必要経費などコントロールできなくなると思う。コスト効果等を出すだけでは不足と感じる。	数値目標を第6章第5節に追記しました。
9	面積を増やさず減らすというだけで良いのかは、一度議論しておくべき。また、面積は減らすとあるが財源の視点は良いのか。面積は減らさなくても管理運営を変える等の対応でライフサイクルコストが減ればよいという考え方もある。また、再編には行政組織を変える必要がある。複合化の次には融合化の観点も必要である。今後の課題によく出ると思うが、それでは遅いと考える。再編の支障	財源の視点、管理運営面に関し、第5章基本方針1及び3に追記しました。また、第6章第2節の国の動きに「学校施設等の整備・管理に係る部局横断的な実行計画の解説書」を

No.	意見内容	対応
	になるものとして、住民感情もあるが、庁内組織体制もよくある。大都市ほどなかなかできない。そのため、基本方針に何か記載が必要と考える。	追加しました。庁内組織に関しては第8章に追記予定です。
10	東海市は児童クラブを学校でやっている。学校でやることのメリットは多くあり、学校でできれば何も建物を作らなくてもできるはず。すぐにでも出来ると考える。	ハード整備だけでなく、ソフト対策についての方針を第5章基本方針1に追記しました。
11	中学校3校の統合の話もあると思うが、数を数えて統合できるという話ではなく、小中一貫校にすることで良い教育ができるということを表にだすべきと考える。	概要版別添資料の別添8に利点として小中一貫教育の制度化の目的を追記するとともに、本編にも記載を追加しました。また、第6章第2節の国の動きに「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」を追加しました。
12	亀山の事例は施設の再編からでなく、コミュニティスクールとして計画した結果、複合施設となった。松坂はうまく動きつつあるので、福祉部局が窓口を持つてくるようになった経緯がある。旧公民館は別の課題を解消するために利用するといった玉突きが起きており、結果として公共施設問題に対して良い結果が出ている。	—
13	事例から複合化の方向性にいくのが疑問に感じる。	国の動き・事例は参考資料とし、公共施設再編の基本方針、複合化・集約化の目的を経て複合化・集約化の方向性を示す構成に修正しました。
14	地区施設にバランスよく配置という言葉に対して、学校1校化では何がいけないか、という点から考えなければいけないと感じる。削減しなければならないのであれば、もっと大胆にすべきではないか。機能が重複しているとあるが、学校が重複しているのであれば統合すべきではないか。	第3章第1節について、バランスよく配置の文言は残しつつも、機能重複に対する効率性の旨を追記しました。
15	小中一貫校について、部活の地域移行の中で、緒川新田地区の人口減少が顕著で、部活に人が集まらないといった問題があり、他の中学校との統合求める声がある。また、小学校と中学校で校区が一緒なのが緒川新田地区のみであり、コミュニティスクールも唯一合同で運営されている。小中一貫校とするには緒川新田地区という意識はあるが、具体的な動きはない状況である。今後、活発な議論をしていきたいと考える。	—
16	施設として統廃合していくハードの問題で考えたあと、人数や地域の衰退にかかるソフトの問題の再検証が必要ではないかと考える。	ソフト対策についての方針を第5章基本方針1に追記しました。
17	文化系の子供たちの部活を保証するとなると、地域の高齢者の力が必要となる。高齢者の活動場所と学校が近接すれば連携しやすいとなればより良いと思う。このようなメリットを示して、学校と高齢者施設が複合といった組み立てができるが良いのではないかと考える。	ソフト対策についての方針を第5章基本方針1に追記しました。

No.	意見内容	対応
18	学校が地域に開かれていく動きがある。学校を一つにまとめるのではなく、地域と学校が融合する方向の方が良いと思う。学校を核としてコミュニティ施設が寄っていく形が良いと考える。	—
19	社会サービスがどうあるべきかを考えたうえで、行う場所を検討するのが望ましいが、現実的にはできる場所が限られている。現状問題、適地と考えられるのは児童生徒数が減少する学校である。そのため、学校を種地にしながら、地区ごとに丁寧に議論していくしかないと考え。地区ごとに人口のバランスやニーズが違い、施設の耐久性等も学校ごとに違う。地区ごとに議論していくしかないと考え。小中一貫がいいのかわけるべきなのかなど、それぞれのバリエーションを検討していくべきと考える。	—
20	森岡保育園が老朽化、区画整理の影響より、森岡西保育園との統合を計画している。本計画で方向性を出したうえで進めたい。ただし、再配置計画の中では可能性がある、という書き方でしか書かれないのか。	本計画では全体の方向性を示しますが、個別具体的話は別計画（基本構想・基本計画等）にて検討予定です。
21	複合化の方向性の全町拠点③こども家庭センターの設置について、児童課として、保健センターの中に児童虐待の部門があり、そこにこども家庭センターを置く事例がある。児童と福祉の複合により良いサービスとなると感じた。ただ、方向性とあるので、具体の結論が出るのか。	個別具体的話は別計画（基本構想・基本計画等）にて検討予定です。
22	バランスよく配置されているとあるため、現状維持でとになってしまうのではないかと。施設の機能をまとめてという話があるが、前段でバランスが良いとされているため、住民理解が得られにくいのではないかと。老人憩の家は高齢者の交流機能であるので、コミュニティセンターや学校空き教室との複合も考えられる。	第3章第1節について、バランスよく配置の文言は残しつつも、機能重複に対する効率性の旨を追記しました。
23	バランスよくではなく、各地区に存在するものの、それぞれが単独に配置されており、利用効率が悪い、といった表現の方が良いのではないかと。利用実態に比べてコストがかかっているのではないかと。	第3章第1節について、バランスよく配置の文言は残しつつも、機能重複に対する効率性の旨を追記しました。
24	庁舎について、消防との複合があるが、メリットがはっきりしないため説明いただきたい。役場と消防支署が一つの敷地であることについて、役場と支署の連携など、どこまでのメリットがあるのか不明である。確かに支署の現在地にはハザードがあるが、災害時よりも平常時を考えるとデメリットが大きいのではないかと。	第6章第2節の複合化の方向性に消防に関する記載を追記しました。
25	老人憩の家とコミュニティセンターの複合について、知多半島の南粕谷ハウスでは、「老人に集まってください」とわざわざ言わなくても集まる例がある。地域移譲での小規模分散型のアプローチもあるのではないかと。そうすればアクセス性の懸念も解消できるのではないかと。	—
26	全町施設①は単体で動いていいのか、未来会議等にはこのような意見があがっていないのではないかと。また、組織の融合も考えていく必要がある。	災害の拠点性の観点や適地がないこと等から、消防との複合化を示しています。庁内組織に関しては第8章に追記予定です。

No.	意見内容	対応
27	小中学校の窓口の一本化の事例など、コストの大部分を占める職員の人件費などの整理は今後どうしていくのか。	第5章基本方針に人件費含めた管理運営面の旨を追記しますが、人件費の具体の話は別計画（基本構想・基本計画等）にて検討予定です。
28	P. 3 第4節、全町拠点①～③・地区拠点があるが、全町拠点②の文化センター等の複合は東浦中学校の移転が済まないとなし難いとなるため、東浦中学校の複合を一番最初に持ってくる必要があるのではないか。	ご認識の通りです。第6章のロードマップ検討に際しては東浦中学校の複合を最初に設定しています。
29	P. 6 再編プラン案の検討について、地区拠点は全部複合の考えで良いのか。体制の再編は必ず必要となるため触れた方が良い。また、小学校が核となるとあるが、他施設を全て壊して新しい建物を作るのか、今ある小学校の空きスペースを活用するのかといった方向性が見えないため教えて欲しい。半田市では小学校のプールを解体した跡地に公民館を新設する方針と聞いている。	個別具体の話は別計画（基本構想・基本計画等）にて検討予定です。
30	P. 7以降のロードマップについて、P. 9の案3の高齢者相談支援センターは単独の建物のようにかかっているが、現状、勤労福祉会館の1室となっているため、勤労福祉会館の複合と時点のずれが生じるのではないのか。	個別具体の話は別計画（基本構想・基本計画等）にて検討予定です。
31	駐車場について、現状混むときは入りきらない状況となっている。文化センターの規模が大きくなればより多くの駐車場が必要となるので、足りるのかは不安である。50年先だと生活様式も変わるので、フレキシブルな設計になると良い。	駐車場は施設管理者ヒアリングにて将来的な要望も踏まえつつ設定しています。
32	東浦中学校の移転が前提となっているが、他の案は考えられるのか。	全町施設整備に際し、候補地が東浦中学校敷地のみとなる検討結果を踏まえています。
33	東浦文化広場（体育館）のテニスコートの場所に東浦中学校の校舎を建てるとあるが、テニスコートをなくすという事は、代替を整備する必要があるのではないのか。	敷地として納まるかどうかの検討資料であり、必ずしもテニスコートを廃止する必要があるという資料ではありません。個別具体の話は別計画（基本構想・基本計画等）にて検討予定です。
34	東浦中学校移転について、教育部としては難しいのではという意見が多かった。森岡地区の複合化の話と比べて、メリットが非常に少ないのではないかと考える。数値としては可能かもしれないが、既存の体育館を残すのであれば、校舎の設計に苦慮するのではないかと考える。盛土等の対策費用が浮くとの資料があるが、学校施設はコストをかけていいのではないかと意見もあり、住民に納得してもらえるか疑問である。教育委員会としては、現敷地でかさ上げ等をしながら対応した方が、良いアイデアが出るのではないのか。また、市街化調整区域での整備の可能性はないのか。	概要版別添資料の別添6に利点を追記するとともに、本編にも記載を追加しました。 (No. 42 意見も参照ください。)

No.	意見内容	対応
35	全町拠点の保健センターと文化センターについて、建物自体は別だが、電気等は共同で使っている。時期をずらすとどうなるのかという話になるため、建物状況を加味したロードマップになると良い。	個別具体的話は別計画（基本構想・基本計画等）にて検討予定です。
36	P. 3にはなのき会館があるが、現状、ふれあい教室で使用しているため、各種支援センターに寄せた方が、より現状に即していると感じる。	はなのき会館の主たる機能は会議室などの貸館機能ですので、ふれあい教室のみ個別の対応とします。
37	仮に役場の中に消防署支署を複合するのであれば、非常に重要な施設になるため、安全性等を考慮し用地買収しても良いと思う。	—
38	東浦文化広場（体育館）に東浦中学校を移転することについて、通学路の距離だけでなく、国道を通らないですむ等、安全面もメリットとして加えていいのではないか。	概要版別添資料の別添6に安全面の利点を追記しました。
39	駐車場の確保について、将来を見据えてとあるが、将来がいつなのかを明確にしないとわからないのでは。駐車場にも人口減少による影響を反映させないとおかしいのではないか。	個別具体的話は別計画（基本構想・基本計画等）にて検討予定です。
40	東浦中学校の通学距離も現時点のものであるが、人口減少等、将来的にはどうなるのか。	本編第2章第4節及び概要版別添資料の別添9に中学校別の生徒数推計を追記しました。
41	ロードマップの資料で、これだけある施設の中で、今後廃止する施設は町営住宅と北部防災倉庫だけであるが、この先35年間という計画期間内で、現在町が提供している行政サービスや機能を今後どれだけ行政として保持していくのか十分に検討されたのか。 （事務局回答）機能を廃止できるかという、どの部署からも廃止できる機能はないという意見があったため、規模縮小のトーンで整理している。	第1回作業部会の際にいずれの部署からも廃止できる機能はないという意見を頂いたため、規模維持・縮小として整理しています。
42	市街化調整区域は新しい建物を建てる前提でないことは理解いただきたい。かさ上げすることということは仮移転する必要があるため、コストなどの観点から困難であると考えている。	—
43	現状、1組織1館で行っていることを複数組織1館にすれば、デメリットの方が先に思い浮かぶと思う。ただ、実際にやってみると気が付かなかったメリットが多く得られる。事前に計画や数値化することは難しいが、複合化のメリットとしては、コストや面積の削減ではなく、今までなかったことが生まれるという点に価値があると思う。 ただし、複合化は面積と人の削減でなく、サービスのあり方を見直すことができないと、削減どころか増えていくと考える。これから50年後に何が起きかわからないのはその通りであるが、変わっていける余地を残しながら計画していくべきとある。デメリットを少なくしていくというのは賛成である。一方で、どんなメリットが描けそうか思案することが重要であると思う。	—